

のぼり おじょう
No.12 登尾城

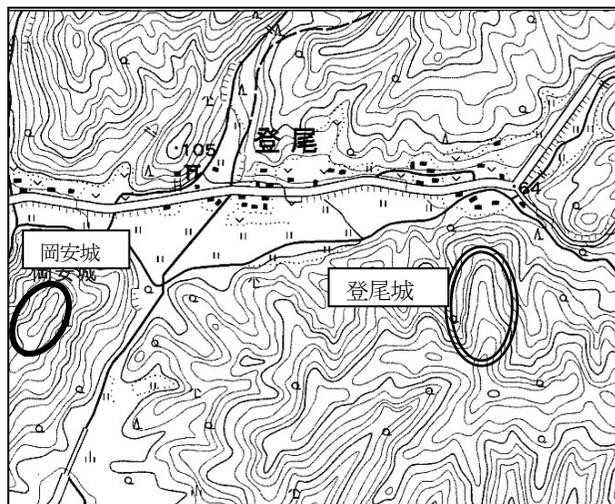
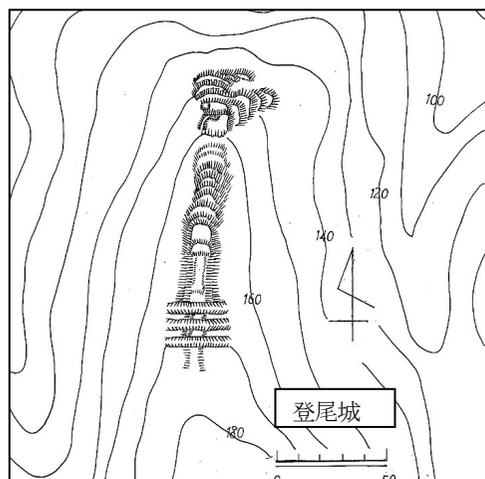
舞鶴市字登尾小字元山他

- ・遺構---曲輪、堀切、土塁
- ・占地---尾根
- ・標高---170m
- ・比高---105m
- ・遺跡地図番号---334

この城は登尾集落の南東に位置する。若狭に向かう街道はこの山麓で塩汲峠と杉山・松尾方面へと分岐する。

曲輪からみて南側の尾根は三重の堀切で遮断している。自然地形と階段状の曲輪が60m程続く。さらに20m程の傾斜地において、西側にカギ形の土塁のある小規模の曲輪があり、山麓に向かって四～五段の曲輪が造成されている。国境に近い街道を意識した城館である。

城主に関する伝承や記録はない。



次のステップが楽しみな河辺谷

何年か前、西屋地区の方に案内していただいたことがあります。

あの山に山城があった。ここは戦場(小字千丈)・あそこが勝負(小字勝負)・そこが幟立(小字登立)、谷の奥には供養塔が沢山ある。ここはお方さまという偉い方のお屋敷があったところ。ところがお方さまは、年貢を取るときには大きな枡(納枡)を、米を貸すときには小さな枡(下行枡)を使ったため、強欲な方だと村人達に殺された。中田地区の和田さんは「ノブナガ」の家来であった。等々・・・お話は尽きませんでした。

後に知りました。河部(河辺)村公文分として大方殿様の土地が五町百五十歩あったこと。和田さんの先祖が中田清左右衛門で、1522(大永2)年に書かれた和田家文書には、「源六殿様^{とのさま}へ御侘言申上候由」と1517(永正14)年に武田氏に滅ぼされて行方不明になった源六殿様(延永春信)の名が出てくること。細川が丹後入国3年後の1583(天正11)年、まだ政情不安な状況のなかで逸見蔵人なる人物を従えて、丹後で最初に演能を行ったのが河辺八幡神社であったこと。

河辺谷には、まだまだ面白い伝承や事実がありそうです。次のステップが楽しみな地域ですねー。(と)